

2024年3月 群馬製作所工場ご視察会 主な質疑応答(要旨)

2024年3月20日に開催しました株主様工場ご視察会につきまして、当日は多くの株主様にご出席いただき、活発な質疑応答が行われました。多くのご意見・ご質問をいただいた中から、ご参考にその一部を紹介いたします。

Q：群馬製作所の現在の課題を教えてください。

A：電動化への移行において、各国の環境規制に柔軟に対応し、生産性を向上させ、企業競争力を高めていくことが重要であると考えています。また、原材料価格の高騰に対し、いかにしてコストを抑え、お客様にとってお求めいただきやすい価格でバッテリーEVをご提供できるかという点が重要であると考えています。

Q：SUBARUが培ってきたエンジンの技術は、バッテリーEVでも使えるのでしょうか。

A：当社がこれまで深めてきた加工技術や、振動・騒音を抑制する技術など、エンジンがモーターなどに置き換わっても使えるものは多数あると考えています。エンジンに関する技術の全てがバッテリーEVに転用できる訳ではありませんが、SUBARUはエンジンやモーターなどのパワートレインだけではなく、総合的に「安心とゆしさ」を追求していくことで、電動化時代においても競争力を高めることができると考えています。

Q：SUBARUの電動化における構想を教えてください。

A：電動化への過渡期においては、環境規制や市場の動向を注視しつつ、トヨタ自動車との協業も活用しながら柔軟に対応し、ある程度方向性が見えてきた段階で一気に拡張していくという「柔軟性と拡張性」の視点で、先行きの見えない困難な時代を乗り切っていきたいと考えています。2025年付近の矢島工場での混流生産ラインによるバッテリーEVの自社生産、ならびに、2027年以降の大泉工場でのバッテリーEV専用ラインの立ち上げなど、大きく状況が変わる時期に備えて複数の選択肢を構えています。

Q：完成検査業務に関わる不適切事案に対する再発防止策として、完成検査棟の新設以外の活動を教えてください。

A：全従業員が各職場で当時を振り返り、話し合う「風化させない活動」を毎年必ず行っています。事案の発生から約7年が経過し、新入社員や中途採用従業員など当時は在籍していなかった従業員も増えてきているからこそ、振り返る時間をより大切にしていきたいと考えています。

Q : これからの日本市場においては、高齢者と女性に好まれるクルマが重要になると、私は考えています。
SUBARUの見解を教えてください。

A : 日本のお客様から、「よりコンパクトで安全なSUBARUらしいクルマをつくって欲しい」というご要望をいただいていることを認識しています。SUBARUは、女性や高齢者に限らず誰もが安心して乗れるような運転のしやすさ、疲れにくさ、安全性の高さを追求し続けていきたいと考えています。またご参考までに、SUBARUの重点市場である米国では、女性が当社の主要ユーザーです。

Q : 一定の回数を使用した金型は、廃棄されるのでしょうか。

A : 補修品の生産のために維持・補修をしながら使用しています。

Q : 完成検査棟を新設したことで、完成検査の生産性は向上したのでしょうか。

A : 作業環境を整備し、検査のしやすさを向上させたことは、生産性の向上に寄与していると捉えています。

以上